

問 児童・生徒の安全対策の検証を

答 犯罪の予防に努める

松井 甫 議員

問

宍粟市では、市民による子どもを守るための活動が定着しつつあります。しかしながら児童・生徒を狙った凶悪な犯罪が、いどこで起こるか不安があります。犯罪の予防対策や安全対策は十分か、順次伺って参ります。まず、全学校で児童・生徒の防犯訓練の実態について伺いたい。次に登下校時の不審者対策や生徒の問題行動について問う。次に緊急連絡網として、インターホン・警報ベルやブザーの設置状況を伺いたい。最後に各地で展開される自主防犯活動について伺いたい。

教育長

防犯訓練は宍粟警察署と連携して講習

や学習を深めています。更に、メール連絡システムを活用する等、予防活動に努めています。次に不審者対応、生徒の問題行動対策は先生と児童で通学路の点検や危険箇所の把握、11番の家の確認、防犯ベルの携帯等、指導しています。生徒の問題行動対策は、生徒指導の強化や初期対応の大切さを指導しています。次にインターホン、警報ベル・ブザー等の設置状況は、旧町時代から各施設ごとに順次整備しています。未整備の学校では大規模改造工事等の際、整備を図ります。最後に自主防犯活動は、学校、保護者、地域及び関係機関と連携して今後も継続的な取り組みが必要です。



やまさき安全みまもり隊 (山崎小学校)

問 夢の町づくりは出来たか

答 参画と協働・財政健全化を基本に

大上 正司 議員

問

合併後三年を振り返り、総合計画に沿った夢の町づくり実現に向けた行政運営が出来ているか。19年度は、新庁舎建設・総合病院の医師確保・夜間応急診療所開設・赤字バス路線休止に伴う代替交通の確保・乳幼児医療費助成を六年生まで延長・地域情報化事業の着手・県産木材供給センターの誘致・ゼロエミッションの取り組み、更に、予期し得なかった千種東小学校危険校舎認定による取り壊しと再建など、厳しい財政状況の中で、市長以下職員が一丸となって、積極的に取り組まれたことは一定の評価は出来るが、

私が常々申し上げている高齢者に温泉施設利用の優遇処置や障害者福祉の充実・結婚祝い金の支給など、市民が「ぬくもりを感じ」合併してよかったと実感できる夢の町づくりが出来たかどうか疑問であります。

今後、国県も歳出削減を一段と強め、先に発表された本市の財政適正化計画に影響があると思われますが「金を掛けずに心をかける」行政展開はいくらでも出来るので、市長の強いリーダーシップを期待します。

市長

市民の参画と協働を基本に、行政懇談会等で沢山の意見をいただいた。その声を大切に「財政健全化を一番に」宍粟市の「豊かな自然と資源を活かした」行政運営をして参ります。

